



Monthly Guide

2021年
9月号

りそなグループの
YouTubeで、
最新のマーケット情報を
配信しております！



主要マーケットの動き

■世界株式は7ヵ月連続で上昇しました。新型コロナデルタ株の世界的感染拡大が圧迫要因となりましたが、長期金利の低位安定が下支え役となりました。テクノロジー株を中心に成長株が市場を牽引しました。

■米10年国債利回りは一時1.1%台後半、ドイツ10年国債利回りはマイナス0.5%台といずれも今年2月以来の水準まで低下(価格は上昇)しました。米国の資産買い入れ策の縮小観測が高まりましたが、利上げは当分先との見方から長期債には資金流入が続きました。

● 今月の金融環境



米国

パウエルFRB議長はジャクソンホール会議の講演で「7月FOMCで、経済が想定通りに回復すれば、年内の資産買い入れ縮小開始が適切との見方に立った」と発言。他方、利上げ開始はまだ先との認識を示しました。



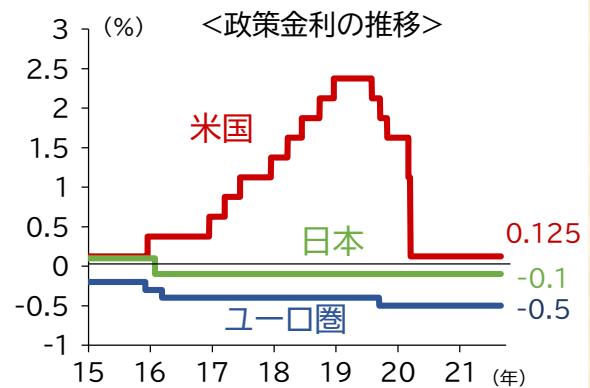
欧州

ECBは7月理事会で物価目標を見直し、緩和策を強化しました。9月会合では、来年3月期限の資産買い入れ策の延長/終了について議論される見通しです。



日本

日銀は7月の会合で国内経済を「引き続き厳しい状態にあるが、基調としては持ち直し」と評価。緊急事態宣言が延長・拡大され経済活動の正常化が遅れる中、9月会合では一連の緩和策の維持が見込まれます。



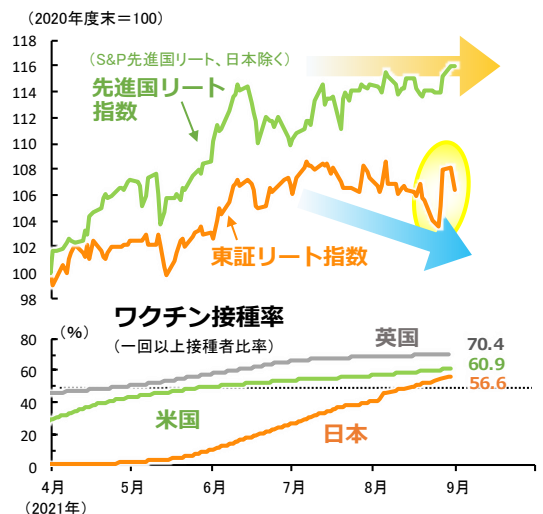
※米国: FFRレート誘導金利(中央値) ※ユーロ圏: 中銀預金金利
※日本: 日銀当座預金金利(マイナス金利は日銀当座預金の一部に適用)

● 今月の注目指標 出遅れている国内リートの挽回なるか

国内リートの出遅れ修正が進むか注目されます。7月、8月のパフォーマンスでは先進国リートが累計5%超の上昇となったのに対し、国内リートは新型コロナウイルス感染再拡大を受け頭打ちの動きとなりました。

国内リートは、在宅勤務の普及などで収益見通しの不確実性が高まるオフィス系リートが4割超のウェイトを占めます。他方、先進国リートはオフィス系リートの比重は1割程度で、物流・データセンターなど安定した需要増が見込まれるセクターのウェイトが比較的高く、こうしたセクター構成の違いが内外リートのパフォーマンス格差に表れた形です。

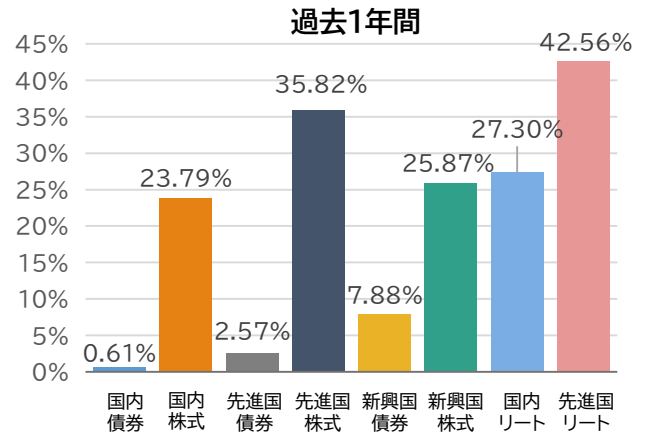
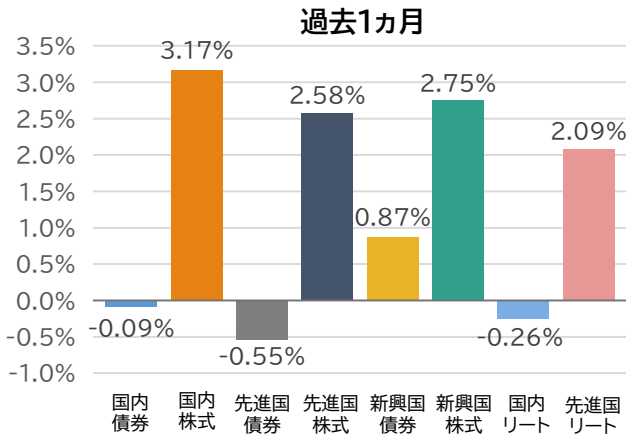
ただ、先進国リート指数の利回りは3.1%に対し、東証リート指数は3.4%(いずれも8月末時点)とインカムゲイン重視の投資家にとって国内リートは魅力的な投資先と言えます。また、足元では日本のワクチン接種率が進み、感染への耐性面で欧米との差が解消されつつあることから、9月以降、国内リートが相対的な劣勢を挽回するか、注目されます。



【出所】 Our World in Data、Haver analytics、ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

※本資料の使用に際し、最終ページの＜本資料に関するご注意事項＞をご覧ください。

8月末基準 各資産別 月間騰落率と振り返り(円換算ベース)



※ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメントが作成。※国内債券：NOMURA-BPI総合、国内株式：東証株価指数(TOPIX、配当込み)、先進国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)、先進国株式：MSCI-KOKUSA指数(配当込み、円ベース)、新興国債券：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円換算ベース)、新興国株式：MSCIエマージング・マーケット指数(配当込み、円換算ベース)、国内リート：東証REIT指数(配当込み)、先進国リート：S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円ベース)

国内債券

10年国債利回りの月末値は0.02%と前月末値を僅かに上回りました。4-6月期GDPは前期比+0.3%と2四半期ぶりにプラス成長となりました。8月の月例経済報告では「サービス支出を中心に弱い動き」と個人消費について慎重な見方を維持しました。緊急事態宣言の延長・拡大で経済活動正常化の遅れが見込まれる中金利上昇圧力に乏しい展開が続きました。

先進国債券

米10年国債利回りは1.3%を挟んでレンジ内で推移しました。月末のパウエルFRB議長講演では、テーパリング(資産買入れの段階的縮小)の年内開始が示唆される一方、利上げ決定にはより厳しい条件が必要との認識が示されました。独10年国債利回りは一時▲0.5%台まで低下しましたが、月末にかけECBの量的緩和の延長見送り観測が強まり反騰しました。

新興国債券

新興国債券(円建て)は2ヵ月ぶりに上昇しました。国別では、メキシコ、ブラジル、ロシア、チリなど資源国通貨が対ドルで下落し、マイナス寄与となる一方、コロナ感染拡大に一巡感が見られるインドネシア、タイ、マレーシアなど東南アジア国がプラス寄与に転じました。

国内リート

東証リート指数は10ヵ月ぶりにマイナスとなりました。月前半は景気回復の遅れ懸念等から売りが先行しましたが、下旬に急速に買い戻しが進みました。用途別指数では、指数時価総額の約40%を占めるオフィス指数のマイナスが目立ちました。日銀によるリート購入は5ヵ月連続で見送られました。

<本資料に関するご注意事項>

○本資料はりそなアセットマネジメント株式会社が作成した投資環境等に関する情報提供資料であり、販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。○本資料の作成にあたり当社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に示されている当社の見通し、予測、予想、意見等(以下、見通し等)は、それぞれ作成時点のものであり、将来予告なしに変更されることがあります。また当社の見通し等は、将来の景気や証券価格等の動きを保証するものではありません。取引時期などの最終決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。○本資料に関わる一切の権利はりそなアセットマネジメント株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。

<ファンドの設定・運用> ■りそなアセットマネジメント 商号等/りそなアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2858号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

国内株式

日経平均株価の月末終値は2ヵ月ぶりに28000円台を回復しました。コロナ感染再拡大や中国の統制強化の影響などから月央に年初来安値を更新する場面がありましたが、月末にかけて買い戻されました。上場企業の4-6月期決算で4社に1社が最高益となるなど企業業績の回復期待が下支えとなりました。日銀のETF買いは2ヵ月連続で見送られました。

先進国株式

米国ではNYダウ、S&P500、ナスダック総合の主要3指数が揃って最高値を更新しました。新型コロナウイルスの感染再拡大を受け消費者心理等の景気指標の悪化が見られましたが、長期金利の低位安定を支えに買いが先行しました。物色では成長株が割安株をアウトパフォームしました。欧州では代表的株価指数のSTOXX600が最高値を更新しました。

新興国株式

新興国株式(円建て)は2ヵ月ぶりに上昇しました。国別では、国家統制強化の動きが嫌気され前月大幅安の中国は小幅反発。約3年ぶりに政策金利の引き上げに踏み切った韓国やブラジルなどがマイナスとなる一方、円換算指数で10%超上昇したインドやタイのプラス寄与が目立ちました。

先進国リート

先進国リート指数は景気減速懸念と緩和的な金融環境の強弱材料が交錯する中、10ヵ月連続でプラスとなりました。地域別では、シンガポール、香港などアジア圏の下落が目立ちました。一方、セクター別では、強い需要見通しから産業施設や貸倉庫セクターの上昇が目立ちました。